

第8回自殺対策推進会議資料

NPO法人自死遺族支援ネットワークRe
山口和浩



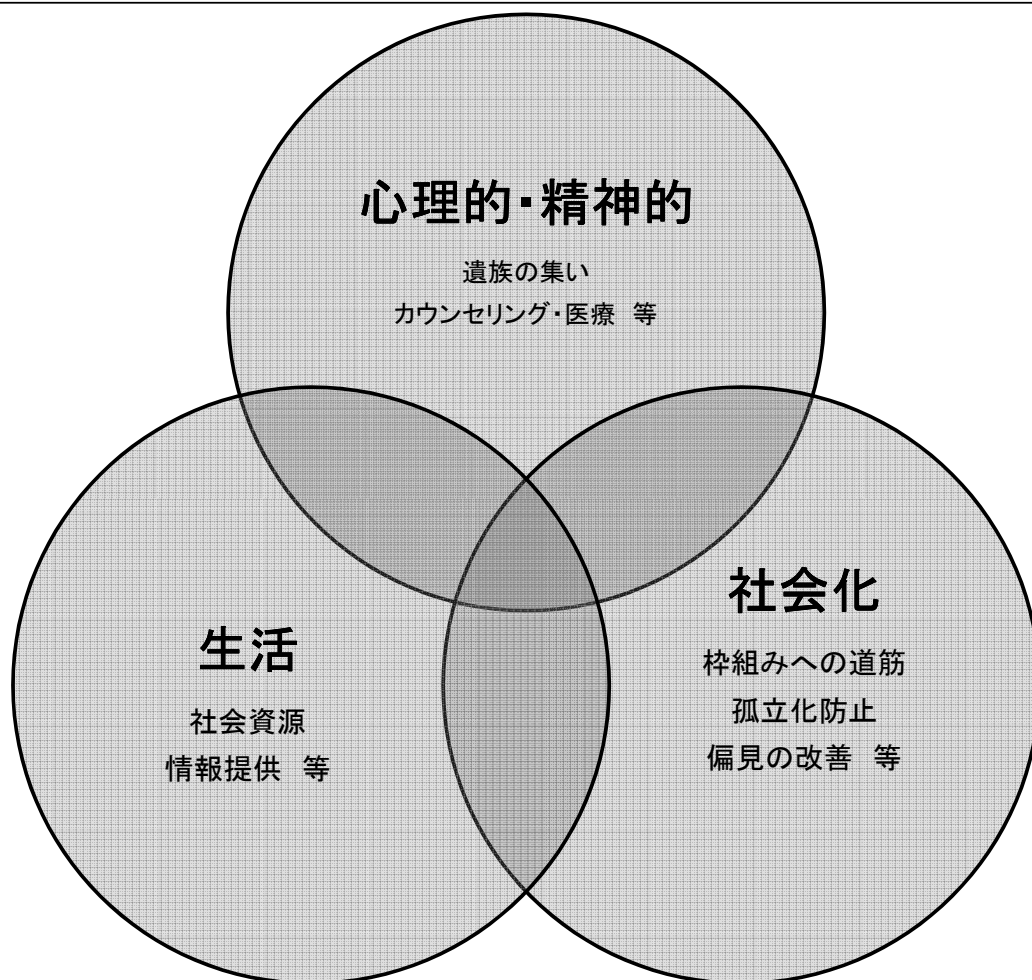
Reの活動

- 自死遺族の分ち合いの会（遺族の集い）
毎月第2土曜日（大村市）
偶数月第4土曜日（長崎市保健所合同）
離島（五島保健所・五島市）/年1回（12月1日）
- 行政との協働
地域自殺対策への参画
- 情報提供
講師派遣等

自死遺族“支援”の枠組みの現状

- 心理的な面からのサポート(遺族の集い、分かち合いの会等)の先行
- 分断されがちな生活支援
- 窓口別の支援策に翻弄される

包括的かつ総合的な視点を踏まえつつ、それぞれの分野での固執した支援にならないようなコーディネーター的人材養成もしくは意識変化への期待。



精神科病院の関わり

- 近親者に自殺者がいる受診患者 10.5%

うつ病対策の効果として、精神科病院への壁が少しずつ低くなる中で急性ストレス反応、うつ病エピソードから受診につながるご遺族の存在は、精神科病院が自殺予防としての役割だけでなく、総合的な遺族支援につながるきっかけの場となり得ることも意味するはずである。

精神科医の症状に対する治療的アプローチだけでなく、心理士やPSW等の役割強化も改めて検討されることを期待したい。

データ提供: 横浜カメリアホスピタル

展開への課題

- 情報を必要とする人に届く仕組み
 - 社会負担としてのシステム作り
 - 時系列による支援策の整理
 - 各支援のステージへのつながりを支える
(道のりへの支援的な関わり)
- 個別性への理解と配慮
 - 300万通りの背景、関係性、想い
- 目的化されない“ケア”へ
 - 手段としてのケアであり、ケアの先にある
“生きる”“暮らす”への意識化

中長期的な取り組みへの期待

- “自殺予防”に対する両価性への配慮
 - “予防”偏重の中での生きづらさ
- 子どもたちへの教育的アプローチの強化
 - 誤解、偏見の改善
 - 発達段階に応じた言語表出への配慮
- 選べる支援策へ
 - 各グループの特徴への理解
 - 多様なニーズへの量と質の確保